

# CONTENTS

『系統看護学講座』の構成	1
医学書院とテキストのご案内	2
『系統看護学講座』を活用した指導例のご紹介	4

## 専門分野

基礎看護学 [1] 看護学概論	8
基礎看護学 [2] 基礎看護技術Ⅰ	10
基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ <b>2025年改訂</b>	12
基礎看護学 [4] 臨床看護総論	14
地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤	16
地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践	18
成人看護学 [1] 成人看護学総論	20
成人看護学 [2] 呼吸器 <b>2024年改訂</b>	22
成人看護学 [3] 循環器 <b>2024年改訂</b>	24
成人看護学 [4] 血液・造血器 <b>2024年改訂</b>	26
成人看護学 [5] 消化器 <b>2024年改訂</b>	28
成人看護学 [6] 内分泌・代謝 <b>2024年改訂</b>	30
成人看護学 [7] 脳・神経 <b>2024年改訂</b>	32
成人看護学 [8] 腎・泌尿器 <b>2024年改訂</b>	34
成人看護学 [9] 女性生殖器 <b>2025年改訂</b>	36
成人看護学 [10] 運動器 <b>2025年改訂</b>	38
成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染症 <b>2025年改訂</b>	40
成人看護学 [12] 皮膚 <b>2025年改訂</b>	42
成人看護学 [13] 眼 <b>2025年改訂</b>	44
成人看護学 [14] 耳鼻咽喉 <b>2025年改訂</b>	46
成人看護学 [15] 歯・口腔 <b>2025年改訂</b>	48
老年看護学 <b>2025年改訂</b>	50
老年看護 病態・疾患論 <b>2025年改訂</b>	52
小児看護学 [1] 小児看護学概論 小児臨床看護総論 <b>2025年改訂</b>	54
小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 <b>2025年改訂</b>	56
母性看護学 [1] 母性看護学概論	58
母性看護学 [2] 母性看護学各論	60
精神看護学 [1] 精神看護の基礎	62
精神看護学 [2] 精神看護の展開	64
看護の統合と実践 [1] 看護管理 <b>2024年改訂</b>	66
看護の統合と実践 [2] 医療安全	68
看護の統合と実践 [3] 災害看護学・国際看護学 <b>2024年改訂</b>	70

## 専門基礎分野

人体の構造と機能 [1] 解剖生理学	72
人体の構造と機能 [2] 生化学	74
人体の構造と機能 [3] 栄養学 <b>2025年改訂</b>	76
疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学	78
疾病のなりたちと回復の促進 [2] 病態生理学	80
疾病のなりたちと回復の促進 [3] 薬理学	82
疾病のなりたちと回復の促進 [4] 微生物学	84
健康支援と社会保障制度 [1] 医療概論	86
健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生 <b>2024年改訂</b>	88
健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉 <b>2025年改訂</b>	90
健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令 <b>2025年改訂</b>	92

## 基礎分野

物理学	94
化学	96
生物学	98
統計学	100
社会学 <b>2024年改訂</b>	102
心理学	104
教育学	106
文化人類学	108
人間関係論	110

## 別巻

臨床外科看護総論	112
臨床外科看護各論	114
救急看護学 <b>2024年改訂</b>	116
がん看護学	118
クリティカルケア看護学	120
リハビリテーション看護	122
緩和ケア	124
家族看護学 <b>2024年改訂</b>	126
栄養食事療法 <b>2025年改訂</b>	128
臨床検査	130
臨床放射線医学	132
臨床薬理学 <b>2024年改訂</b>	134
看護史	136
総合医療論	138
看護倫理 <b>2024年改訂</b>	140
看護研究	142
看護情報学	144
精神保健福祉	146



2025年版

# 『系統看護学講座』の構成 全70巻

常に時代とともに歩み、看護教育の変化に迅速に対応  
毎年、全巻にわたって内容を点検し、正確かつ最新の情報に更新  
2025年版では16巻を改訂します

## 半世紀以上にわたり改訂を続ける体系的「教科書」

『系統看護学講座』(系看)は、看護教育への貢献を旨として、1968年に「系統別」で体系化した教科書として創刊しました。以来50年以上もの間、必要な教育内容・教科を組み込みながら、より充実したシリーズの教科書として改善を重ねてまいりました。そして今日、看護学における教科書の“定本”として、全国の多くの看護学校・看護系大学で採用されています。

## カリキュラムへの迅速な対応

2009年のカリキュラム改正を受け、『災害看護学・国際看護学』ならびに『病態生理学』を刊行しました。また、臨床で複雑化する倫理的課題を理解するために、2014年版として『看護倫理』を刊行しました。さらに看護の役割の拡大に伴い、2016年版として『看護研究』を、2017年版として『臨床薬理学』を、2018年版では大幅にリニューアルした『家族看護学』を発売しました。2021年版では複雑化する医療を概括できる『医療概論』を発売しています。さらに、2022年版では本格化する新カリキュラムに対応し、これまでの『〈統合分野〉在宅看護論』を『〈専門分野〉地域・在宅看護論 [1] 地域・在宅看護の基盤』と『〈専門分野〉地域・在宅看護論 [2] 地域・在宅看護の実践』の2分冊に発展させ、地域で生活する人々・家族の理解と、さまざまな場での看護を学べるものとしています。既刊の各巻についても、引き続きカリキュラムの趣旨に沿って内容の吟味を欠かさず行い、定期的な改訂を行っています。

## 時代への的確な適応

少子高齢化をはじめとする社会や制度の急激な変化によって、看護に課される役割の拡大と多様化は顕著となっています。教科書には、そのときどきの時代的課題や教育的理念を的確に組み取り、それを紙面に反映させる機能が求められます。本講座では定期的な改訂を行うことによって、こうした時代の求める課題に対応しています。また、見てわかりやすい教科書作りにも努め、多くの巻において紙面をカラー化し、動画教材を用意しています。

## 「系統別」をとる理由

本講座は創刊以来、体系の基軸を「系統別」に置いて編纂してまいりました。時代の変化にかかわらず、基本的に疾患・障害をかかえる人が対象となる医療や看護では、「系統別」が実際のであり、学問・教育のうえで無理がなく、また現行の医療のしくみ・制度、診療・看護の実践にも適合するものと考えています。あわせて、別巻を設けることにより、教育・医療環境の変化に伴うカリキュラム構成の変化にも、柔軟に対応しています。

## 「看護師国家試験出題基準」への対応

看護師国家試験に合格することは、看護教育の重要な目標と言えます。2022(令和4)年3月に発表された「看護師国家試験出題基準(令和5年版)」に沿って、国家試験を念頭に置き本講座の点検を行いました。別途に作成しました「看護師国家試験出題基準 クイックリファレンス」からも、「出題基準」に示される出題範囲を本講座が網羅していることがわかりいただけることと思います。

系統看護学講座 2024年版  
看護師国家試験出題基準

## クイックリファレンス

「系統看護学講座」との対照  
(2024年版)



「クイックリファレンス」に関しましては、医学書院 SP 課にお問い合わせください。

TEL 03-3817-5661